

I 研究論文における文献、論文の引用の仕方

柏木 信一

1. Word による脚注作成の仕方

作成したい所にカーソルを持って行ってから、「参考資料」→「脚注の挿入」。

これで、本文に連番の自動脚注 & 画面下に脚注作成部分 が出て、脚注文作成できます。

2. 文献や論文からの引用

①単著の場合

著者（発行年）『本のタイトル』出版社、p.5 ←引用部が1頁以内の場合。
pp.2～15. ←複数頁に跨がる場合)

例) 柏木信一（2019）『21世紀の商学原論講義－経済・商・法の3極思考－』晃洋書房、pp.120-125.

②共著・編著の場合 ←当該引用箇所の章の著者が特定できる場合

著者（発行年）「当該引用章のタイトル」共著者（発行年）『本のタイトル』出版社、引用頁。

例) 岡田行正（2016）「人的資源管理の史的展開と基本的視座」石橋芳臣・岡田行正編（2016）『経営学の定点』同文館出版、p.63.

③論文の場合 ←PDFの場合も、大学や学会の公開論文であればこの方法で引用！

当該著者（発行年）「当該引用章のタイトル」論集名と巻・号、引用頁。

例) 柏木信一（2005）「マルチ商法(Multi Level Marketing)問題の実態と規制について」修道商学 46-1、pp.114～115.

3. 外国語文献の場合 ←文献名はイタリック (斜体字) で!

①原著を引用

例) M.C.Burk(1968), *Consumption Economics: Multi-disiplinary Approach*,
JohnWilney & Sons,Inc.,pp.4-5.

②訳本を引用

例) Kotler,P.(2004),*Ten Deadly Marketing Sins: Signs and Solutions* (恩蔵尚人訳
(2005)『コトラー マーケティング 10 の大罪』, pp.115-117.)

4. HP の場合 ← wikipedia、Blog、2ch、5ch の利用は、研究資料として不適。

例) 広島修道大学 HP

(<https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?senmonc=63900>) ,2020.10.8 閲覧。

II 巻末の参考文献リストの例 (50音順又はアルファベット順。また、和書→外書で。)

<参考文献>

今井光映 (1994) 「消費者教育の効果的な方法」今井光映・中原秀樹編 (1994)
『消費者教育論』有斐閣ブックス,pp.157-189.

柏木信一(2007)「多重債務者問題と消費者教育」月報司法書士 2007-12月号,p.4.

経済産業省 (2014) 「電子商取引及び情報財取引などに関する準則」
(<http://www.meti.go.jp/press/2014/08/20140808003/20140808003-3.pdf>) ,2015.1.1 閲覧。

国民生活センターHP

(http://www.kokusen.go.jp/hanrei/data/201205_1.html) ,2015.1.1 閲覧。

小牧美江・田實美樹・古川百合香

(2012) 「法教育としての消費者教育に関する研究(1)ー司法書士作成の消費者教育教材の分析」消費者教育 32 冊,pp.91-102.

(2013) 「法教育としての消費者教育に関する研究(2)ー社会科(公民科)と家庭科の教科的連携」消費者教育第 33 冊,pp.141-150.

(2014) 「法教育としての消費者教育に関する研究(3)ー学習方法と指導方法の提案」消費者教育第 34 冊,pp.85-94.

高嶋克義(2012)『現代商業学(新版)』有斐閣アルマ,pp.4-110.

Weber.M(1904), *Die Objectivitat sozialwissenschaftlicher und sozialpolitischer Erkenntnis*

(祇園寺信彦・祇園寺則夫訳(1994)『社会科学の方法』講談社学術文庫、pp.13-161.)